

サレルノ市・遠野親善大使が遠野滞在 アンナラウラ・ヴァリトゥッティさん 姉妹都市の絆 遠野で新たな交流

本市とイタリア共和国サレルノ市の姉妹都市締結から35年の節目に、新たな交流が行われました。遠野親善大使のアンナラウラさんと長男のフランチェスコくん(小学1年)は、4月14日～27日までの14日間本市に滞在。ホームステイをしながら、フランチェスコくんは遠野小学校に2週間通学し、授業や給食、児童館活動などを体験しました。姉妹都市から来た子どもが市内小学校に体験入学するのは初めて。アンナラウラさんは、(一財)遠野市教育文化振興財団で姉妹都市交流事業の計画を支援。アンナラウラさんは「遠野は心が落ち着く大好きな街。息子も遠野の生活を気に入っていて、感謝の気持ちでいっぱい。これからも交流を続けたい」と充実した表情を見せました。



1_ 市役所とびあ庁舎で本田市長と歓談
2_ 算数の授業で元気に手を上げるフランチェスコくん(中央)



市わらすこ条例応援事業者 認定書交付式 市内11事業所が 子育て世帯を応援



認定を受けた各事業所代表者と本田市市長ら

交付式は3月25日、市役所本庁舎3階大会議室で行われ、本田市市長から認定書が交付されました。認定されたのは、市内11事業所。各事業所は、育児休業や育児のための急な休み、学校行事参加のための休暇などを取得しやすい環境づくりに取り組み、子育てを支援しています。

認定された事業所

- 1 尙介護施設あお空
あお空小規模多機能センター(青笹町)
- 2 めがねばし直売所(宮守町)
- 3 にわとこ接骨鍼灸院(宮守町)
- 4 小友町農産物直売組合 産直ともちゃん(小友町)
- 5 ウエイブパン(松崎町)
- 6 尙駒形モーターズ(松崎町)
- 7 尙加藤水産(青笹町)
- 8 遠野ジギスカン羊丸・道(松崎町)
- 9 尙西松屋チェーン遠野店(松崎町)
- 10 尙小友建設(小友町)
- 11 医療法人社団 敬和会
老人保健施設「とおの」(松崎町)

4月15日 17人目の緑のふるさと協力隊員着任

遠野の魅力を発信したい

NPO法人地球緑化センターが派遣する「緑のふるさと協力隊員」として着任した大竹侑理さん(22)がとびあ庁舎を訪れ、本田市市長に着任のあいさつをしました。大竹さんは埼玉県出身で、



『遠野物語』を受け取り笑顔を見せる大竹さん

昨年、初めて見た遠野まつりの華やかさや熱気に感動。「遠野の伝統芸能と暮らしの魅力を発信したい」と目を輝かせました。

4月21日 特別養護老人ホーム遠野長寿の郷でお祝い会

新町の黒田ミ子さん100歳

ミ子さんの100歳を祝う会は同所で開かれ、家族や施設職員らが祝福しました。ミ子さんは、大正8年に土淵町で生まれ、萬之助さん(故人)と結婚。農業のほか、冬の間は



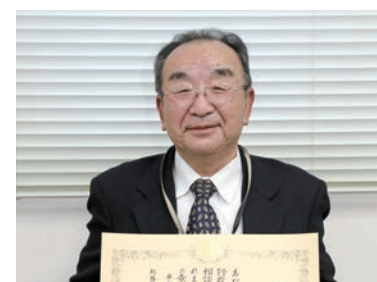
家族らから祝福されるミ子さん(中央)

わら仕事や編み物で生計を支え、4人の子どもを育て上げました。現在は、孫12人・ひ孫16人に恵まれ、同所で穏やかに過ごしています。

4月15日 長年の委員活動に総務大臣感謝状

市民からの相談解決に16年！

平成15年4月1日から16年間、行政相談委員として宮守地区を担当した河野忠良さん(76歳)＝宮守町宮守＝に総務大臣感謝状が贈られました。河野さんは、定例相談所を



月1回開き、市民からの苦情や意見、相談を行政や関係機関と調整。16年間で234件の相談を受け付け、解決に向けて力を尽くしました。

感謝状を受け取り、充実した表情を見せる河野さん

3月27日 小規模多機能型居宅介護事業所長寿庵でお祝い会

附馬牛町の和野ミナさん100歳

100歳を祝う会が開かれ、家族や職員らがお祝いしました。飛内雅之副市長が記念品と花束を渡すと、ミナさんは笑顔を見せ、感謝の言葉を述べました。同町で生まれ



花束を受け取りほほ笑むミナさん(左)

育ったミナさんは結婚後、農業、製材業を営みながら2男1女を育て上げました。現在は、同所を利用しながら、自宅で元気に過ごしています。

4月20日 企業と地域住民による美化活動

平成のごみは平成のうちに

青笹町に事業所がある株式会社オサダ(長田豊代表取締役社長、東京都)主催の美化活動が、笛吹峠や丸峠など市内各所で実施されました。地域貢献の一環として毎年行われ、今年で12回目。社員や市内企業、



タイヤの不法投棄は100本も！

地域住民ら約220人が参加し、可燃ごみ約790㎏と不燃ごみ約1㍓のほか、廃タイヤなどが集められました。

4月21日 第7回田瀬湖一斉清掃&ごみ川柳大会

ごみを拾って川柳を詠む

ごみを拾って、浮かんだ思いを川柳に詠む同大会が、花巻市の東和B&G海洋センターで開催されました。花巻・遠野両市民115人が参加し、1時間で730㎏のごみを回収。



懸命にごみを拾う参加者

ごみを拾った後は、参加者たちが、それぞれの思いを川柳で表現。清掃活動や川柳大会を通じて、河川環境の保護に思いを新たにしました。